

■夢窓疎石(普濟国師) むそうせき 元使斬殺・・・1275＝	禅僧，作庭家。公武の間に多数の支持者を得，七代の天皇から国師号，日本禅宗の主流に。 伊勢に生まれた。宇多源氏の出身。
元が交易許可1278＝ 3歳	母方の一族に紛争があり一家をあけて甲斐に移ってまもなく，母が死去。
異国降伏祈祷1280＝ 5歳	すでに書を読み，文字を書く。
元寇弘安の役1281＝ 6歳	
沙石集・・・1283＝ 8歳	父に連れられて_甲斐の平塩山寺に入り，空阿に従学して，得度，
北条時宗没・1284＝ 9歳	母7年忌に「法華経」を7日間誦する。
	はじめ教学を学んだが，
・・・・・・1292＝17歳	_南都に行き，東大寺戒壇院に登って慈観律師から具足戒を受ける。
平禅門の乱・1293＝18歳	*疎山寺・石頭寺に行く夢をみて，人生には“涯”すなわち限りがあると悟り，一生究め尽くすことを決意，
・・・・・・1294＝19歳	_密教からの転換を決して，京都建仁寺の無隠円範に接し，禅宗に帰依，
・・・・・・1295＝20歳	鎌倉に下向。東勝寺の無及徳詮，建長寺の菴航道然に参じ，
・・・・・・1296＝21歳	さらに，円覚寺の桃溪徳悟，建長寺の庭鈍空性に参ず。
永仁徳政令・1297＝22歳	再び建仁寺に無隠円範を謁す。
一山一寧来日1299＝24歳	再び鎌倉下向。建長寺に一山一寧に参ずる。
・・・・・・1300＝25歳	陸奥に下り松島寺に天台講経を聴聞。ついで下野雲巖寺に高峰頭日を訪ねるが不在。
後二条天皇・1301＝26歳	同寺に維那を司る。鎌倉に帰り再び一山一寧に参ず。
・・・・・・1302＝27歳	一山一寧に従って円覚寺に移る。
・・・・・・1303＝28歳	契悟できず，一山一寧のもとを辞去して鎌倉万寿寺に高峰頭日に参じた後，陸奥白鳥に隠居。
・・・・・・1304＝29歳	白鳥から常陸国内草に移居するなど，_各地の高僧のもとに次々と参じた後，
・・・・・・1305＝30歳	同国白庭に移居。_省悟。鎌倉に帰り，浄智寺に高峰頭日に参じて印可を受け，甲斐に帰り浄居寺を開く。
・・・・・・1307＝32歳	鎌倉万寿寺に_高峰頭日に謁し，自賛頂相と無学祖元の法衣を受ける。
將軍追放交替1308＝33歳	鎌倉万寿寺高峰頭日のもとで維那を司り，高峰頭日から法語を受け，甲斐に帰郷。
・・・・・・1309＝34歳	下野雲巖寺に高峰頭日のもとで書記を司る。誣告を避けて高峰のもとを去り甲斐に帰る。
・・・・・・1310＝35歳	高峰頭日に無学祖元頂相への賛を請う。_本来韜晦癖があり，浄居寺を出て，
・・・・・・1311＝36歳	*甲斐笛吹川上流の景勝の地に龍山庵を創して隠棲したのを皮切りに，
・・・・・・1312＝37歳	火龍山の野焼きの火が庵に向かって来た際，岩上に坐すと，風向きが変わって延焼を免れる。
・・・・・・1313＝38歳	富士五湖から愛高山を巡った後，_美濃長瀬山(のち永保寺)虎溪庵に隠棲し，
・・・・・・1314＝39歳	虎溪山永保寺に観音殿を建立す。_修行の場と不可分のものとして，庭園を制作したことが伝わり，
・・・・・・1315＝40歳	美濃の清水に庵居す。
北条高時執権1316＝41歳	再度，虎溪山に帰した後，
文保御和談・1317＝42歳	上洛して北山に寓居。
後醍醐天皇・1318＝43歳	土佐に下り，吸江庵を開いて庵居，後に弟子の義堂周信らも訪れる由緒地となる。
・・・・・・1319＝44歳	覚海尼の招請で鎌倉の勝栄寺に入るも門を閉ざし，さらなる招請も拒否して，相模三浦の泊船庵に移居。
・・・・・・1320＝45歳	靈山道隠に謁す。
後醍醐親政始1321＝46歳	泊船庵の後山に海印塔を建造す。
・・・・・・1323＝48歳	上総の退耕庵を創建し，隠棲庵居するなど，_各地を転々と隠棲し来訪者も避けていたが，
正中の変・・・1324＝49歳	
・・・・・・1325＝50歳	_後醍醐天皇の強い屈請を受け，上洛して天皇に説法し，南禅寺に住持となるも，
北条氏外執権1326＝51歳	この年，宗峰妙超が大徳寺を開創。_退院し，伊勢に善応寺を開き，鎌倉二階堂に南芳庵を設けて隠棲，
・・・・・・1327＝52歳	_北条高時の招きで鎌倉浄智寺に住し，ついで二階堂道菴の帰依で，瑞泉院を創建，ここでも庭園制作，
・・・・・・1328＝53歳	瑞泉院の山頂に偏界一覽亭を建てる。_北条高時から円覚寺に招請されるが，応ぜず。
疎石円覚寺・1329＝54歳	現存する最も若い時の肖像画。_北条高時から再度招請され，寺の懇請もあって円覚寺の住持となるが，
・・・・・・1330＝55歳	二階堂貞藤の帰依で，甲斐恵林寺を開創。_退山して瑞泉院に帰り，
元弘の変・・・1331＝56歳	_さらに，北条高時から建長寺住持に招かれるが辞退し，峻崖巧安を推薦。
・・・・・・1332＝57歳	甲斐恵林寺に居し，播磨の瑞光寺開山となる。
鎌倉幕府滅亡1333＝58歳	_再び高時から建長寺住持に招かれるも固辞，幕府の滅亡直後，後醍醐天皇から臨川寺を管せられ，
二条河原落書1334＝59歳	_再び後醍醐天皇の招請により宮中に受衣し，南禅寺に再住。没収した道菴の所領を天皇から寄進されて，
中先代の乱・1335＝60歳	*臨川寺の開山となり，夢窓国師の号を賜われ，同寺に開山塔三会院を建立，隠棲からも吹っ切れ，以後，
	一万人を超える夢窓派教団を形成して行くことになる。また，仮(枯)山水の名園を制作，
南北朝分裂・1336＝61歳	_大檀越後醍醐天皇を失い，臨川寺に退避するも，新將軍足利尊氏が受衣して，弟子の礼を執り，
・・・・・・1337＝62歳	建武新政府の瓦解後は，臨川寺を無極志玄に譲り三会院に退居。足利尊氏・直義兄弟の厚い帰依を受け，
	南北争乱に戦死した武士の霊を慰めるため，諸国に安国寺・利生塔を建立することをすすめ，
足利尊氏將軍1338＝63歳	_足利直義の主導で，安国寺・利生塔の設置が始まり，
後醍醐天皇没1339＝64歳	_摂津親秀に西方寺の再興を請われ，西芳寺と改号して中興開山となるとともに，通称苔寺の名園を制作。『
	臨川家訓』『三会院遺誠』を撰す。後醍醐天皇が龜山離宮に入る夢を見て，追善のための暦応寺開山となり，
・・・・・・1340＝65歳	阿波補陀寺開山。暦応寺が着工。この年に描かれた肖像画は重要文化財に指定されている。
・・・・・・1341＝66歳	_足利直義とともに，暦応寺を天竜寺と改称し，天竜寺造営料船(天竜寺船)の明年秋派遣を決める。
五山制定・・・1342＝67歳	真如寺を兼帯。天竜寺船が出帆後，天龍寺が上棟。_光厳上皇が受衣して，弟子の礼を執り，
・・・・・・1344＝69歳	_足利直義からの真摯な質問に答えて仮名文字で著した『夢中間答集』が，大高重成により刊行される。
・・・・・・1345＝70歳	_天龍寺開堂で，後醍醐天皇7回忌仏事。光厳上皇の繪旨で安国寺・利生塔も確定，『西芳遺訓』を撰す。
・・・・・・1346＝71歳	_大伽藍と庭園の美観『天龍寺十境』を定めた後，天竜寺を退き，光明天皇から正覚国師の号を特賜される。
・・・・・・1347＝72歳	
・・・・・・1348＝73歳	高峰頭日三十三年忌厳修。
基氏鎌倉公方1349＝74歳	雲居庵で足利直義受衣す。
観応の擾乱始1350＝75歳	光厳上皇，光明上皇などに衣鉢と法名を授ける。『臨幸私記』を著す。
・・・・・・1351＝76歳	*天竜寺に再住。光厳上皇から心宗国師号を特賜され，後醍醐天皇十三年忌仏事終り退院，足利尊氏同氏の
	末代まで国師門徒帰依の契約をし，2千5百人の僧俗に受戒，『末後遺誠』を著し，三会院南詞軒で薨後に天龍
	寺・三会院の衆を集めて別れを告げ，没した。

春秋社「夢窓疎石」，松岡心平「中世を創った人々」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，「日本の群像」，平凡社百科事典，日本の古典名著，